

饅絵巡りシリーズ第11回
富士見町立沢地区の饅絵巡り

今回は富士見の饅絵どころと言われる立沢の饅絵巡り。ここでは13ヶ所で蔵の饅絵を見ることができます。なかでもユニークなのは神社脇の蔵の妻壁に奔放に描かれた饅絵、左官さんの遊び心に思わず喝采を送りたくなります。地元の方にいろいろとお話を伺うことができました。土蔵の用途が無くなっている中、饅絵の多くは老朽化がすすんでいます。補修したくとも職人さんがいなくなったりして保存は大変なのだそうです。土蔵に饅絵を施したのも「当時の流行だったんだよね」とのことでした。

饅絵以外にも立沢大橋からの眺望、そしてお昼には「おっこと亭」でそばを楽しみ、謎に包まれた稗之底古村址を歩きましょう。シリーズの中でも一番標高の高いところを歩くこのコース、夏でもちょっと涼しさを感じられるのではないのでしょうか。とはいえ残暑厳しく強い日差しの下でのウォークです、暑さ対策も忘れずに。



- 開催日：2023年9月13日（水）
- コース：立沢農村公園（トイレ）－立沢（饅絵4件）－神社（饅絵1件）－立沢（饅絵3件）－立沢大橋－おっこと亭（昼食・トイレ）－稗之底古村址－立沢（饅絵3件）－立沢農村公園（トイレ）
- 距離：約13km
- 集合：9：30 立沢農村公園（長野県諏訪郡富士見町立沢）
- 解散：14：50 立沢農村公園

- ・参加費：会員 300 円 一般 500 円
- ・持ち物：飲み物 雨具 ウォーキングダイアリー(会員のみ) 保険証等
- ・担当者：小澤 久(070-4219-7394) 村松光比古(090-6526-6737)
- ・その他：「そば処おっこと亭」での昼食を予定しています。事前に席を予約するため、希望者は当日朝の受付に申し出てください。なお、昼食持参の方は申し込み不要です。
 <参考>もりそば+野菜天ぷら 3 点盛り 1500 円です。
- ・集合解散場所の立沢農村公園は富士見駅から 5km ほど離れたところにあります。直接集合場所に行けず電車利用で参加したい方には富士見駅～立沢農村公園を有志会員の車で送迎致します。駅からの送迎希望の方はハケ岳歩こう会メンバーリングリストにメールで申し込んでください。
 なお、メールが利用できない方は担当者に直接電話でも結構です。
 送迎利用者は富士見駅に 9:15 に集合、往復送迎費用 300 円を乗車させていただいた方に直接お支払いください。甲府方面からの列車時刻は以下のようになります。
 甲府 8:16－韮崎 8:29－穴山 8:36－長坂 8:55－小淵沢 9:02－富士見 9:10

立沢大橋

立場川と県道茅野北杜韮崎線をまたぐ立沢大橋は高さ 40 メートル、全長約 606 メートル。広域農道ハケ岳エコーラインの橋梁としては最長で、富士山や南アルプス甲斐駒ヶ岳、ハケ岳の眺望地としても有名です。

稗の底古村址(富士見町指定史跡)

稗之底村(ひえのそこむら)は、境方十八ヶ村に数えられる古村でした。「諏訪郡諸村並(ならびに)旧蹟年代記」(筆者不明幕末)に引用される天性十八年(1590)の「諏訪郡御検地御高帳」に高三十六石三升と記載され、僅かな田畑を耕して生計を立てていたが、ついにこの地を捨てて去らざるを得なくなった。その厳しい状況を、後の文書では「右稗之底村ノ儀、ハケ嶽下ニテ地所至ッテ寒ク、作毛生イ立チ兼ネ、其二上野山伐リ尽クシ渡世難儀仕リ、正保年中立沢新田へ引越シ、其ノ後明歴年中以前ノ村方へ罷リ帰り家作仕リ候得共、前諸ノ通り渡世仕リ難ク候二付キ、乙事村へ引越シ住居仕リ中馬稼ギ等仕リ候」と記している。これは宝暦十三年(1763)中馬紛争に関する幕府普請方の産物改めが行われた際に、乙事村の役人が差し出したものである。稗之底村を放棄した村人が立沢村・乙事村に移住したことは、書面で明らかである。また、伝承によれば植松姓、北原姓、五味姓(一部)は稗之底より移住したという。ちなみに、このとき移転したという明歴二年(1656)銘の穴地蔵石幢が乙事に現存する。こんにち跡地は埋もれ、特定するのは困難であるが、大先神社・屋敷平・稗之底の地名を残している。(富士見町教育委員会資料参照)

「ZOOM ママの気ままなウォーキング」より

<https://8236.jp/kimama/walk/aruku/hinosoko-0927.html>